

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		掛川センター				公表日		令和6年10月22日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	職員同士声を掛け合いながら、お休みを調整している	配置は足りているが、個別支援に対して余裕があったほうがより質の高いサービスの提供につながる			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	改善しつつあり、3年前より工夫・改善がみられる	清掃は全員でおこなっており、手の行き届かないところを重点おいて行っていく			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		必要に応じて、場所をわけて、職員が分かれてつくようにしている				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	ミーティングの中で密に情報交換を行っている	お休みした職員にすぐに伝わるように、わかりやすく伝達する			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者等の意向を確認して、改善方法を職員で話し合いを行っている	具体的な方向性等を記録に残して全員が周知できるように行う。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。							
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8						
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8						
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		一部の職員の考えに頼ることがなく職員がそれぞれの考えを出し合い、共通理解を図っている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8						
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8						

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	支援終了後にできない場合も日によってはある。	支援終了後に打ち合わせができなかった場合、毎日のお昼のミーティングで全員が伝わるように共有している
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	協力をいただいて連携は図れている。	連携がとれている機関と再度すべての関係機関と連携とれるように体制を整えていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2		保育所や幼稚園、認定こども園とも情報共有をして相互理解に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				学校を卒業した児童がいないため、今後移行した際に情報を提供し、共有していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	他の放課後等デイサービスや地域の方との交流は見られる。	児童館や地域のこどもと交流できる機会をふやしていく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	家族に対しての情報共有は常に意識して支援をおこなっている	家族が参加できる研修を企画して参加いただけるようにする
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	2	保護者参加型のイベントは取り入れて開催している。長期休みに多くの保護者にご参加いただいている。	保護者会を開催して、保護者同志の交流する機会を増やしていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		SNS等や日々の活動等の写真を保護者に発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	1	個人情報の取扱いについてミーティング等で注意をうながしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	地域の方々を事業所で行われる行事にご招待をしていない。	地域の方々との関りがうすいため、事業所に対する理解を広められるように行事を行っている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		定期的に行っているが、常に新しい情報をとりいれて、訓練にとりいれていく。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8				

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	掛川センター		
○保護者評価実施期間	令和5年 10月 20日		～ 令和6年 10月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39 (回答者数)	36
○従業者評価実施期間	令和5年 10月 20日		～ 令和6年 10月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 10月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験値が多い職員が勤務しており、児童に対しても付き合いがながく、顔色からも体調の変化に気づけたり、特性を理解できてきめ細かい支援につなげていけている。	それぞれの強みをお互いに認め合うと同時に、苦手な分野も理解できているため助け合っているチームワークで運営できている	職員全体での情報共有を行い、これまで以上に意見交換できる場を作っていく。男性職員が少ないため、人材の確保。
2	活動プログラムの多様性	5領域を意識した内容をとり活動内容をいれており、季節を感じる行事や過去に行われたプログラムに捉われず、新しい試みを考えるように心がけている。	日々の活動記録やミーティングの中での活動内容の振り返りを行い、生かしてプログラムを行っていく。保護者にも毎日の内容が伝わるように写真等で発信していくことを定着させる。
3	児童の年齢層の幅が広く、上級生から下級生までのコミュニケーションがよくとれている	年齢の垣根をこえて、発達段階の異なる児童の交流できる場となっている。少子化によって年齢の異なる子供同士の関わり合いが減少しているが、上級生が下級生の面倒を見たり、下級生が上級生を憧れたり真似したりして、人との関りを学べる。	活動によって、集団・小集団・個別を取り入れて、お互いを認め、継続できるように声掛けを行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者・兄弟の参加型イベントはあるが、保護者だけの交流の場・研修の場が設けられていない	平日開催や休日開催等の日時の設定を考え、まずは参加型イベントで交流を図ることを優先していた。	事業所を理解していただいたり、保護者同志の交流の場として保護者会を開催できるように努めていく。ペアレントトレーニングの研修を少人数や日時が選べるように取り組んでいく
2	配置基準は足りているが、少人数・個別に対応していくには職員増員が必要である	職員間の声掛けを多くし、行動がスムーズに行えるようにしている。ミーティングで少人数・個別の役割・時間等も明確にしてから行う。	掛川センターの取り組みや姿を発信して知らせる機会を増やしていく。近隣の大学や専門学校等にアプローチしていく。
3	年齢差があるため、年齢よってのプログラムの充実	小学生向けでは中高生には簡単であり、その逆もみられるため選択できるプログラムを用意する	小集団や個別に向けてプログラムの選択の幅を現状より増やしていく必要がある。年齢・特性・状況により、集団・小集団・個別を行っていく